

スレッドリフトに針を用いないヒアルロン酸注入法を組み合わせることの有用性

蝶野 貴彦

Takahiko Chono

医療法人社団翔友会 品川美容外科

老化による顔面や頸部のタルミとシワを改善し若返りを図るフェイスリフトの需要は今後更に増加すると予想される。

最近では切開によるフェイスリフト、barbed suture（有棘縫合糸）を用いたスレッドリフトは顔面や頸部のタルミ改善を行う治療法として広く普及している。

しかし、どちらの術式も頬骨弓より下方のタルミ改善には有効性が認められ様々な工夫が試みられている一方で、スレッドリフトでは頬骨弓より上方、つまり前額部と側頭部（こめかみ）のタルミ改善に対して効果を出すのは難しい現状がある。

そのため当院ではスレッドリフトに併用する形で上記の前額部と側頭部のタルミやシワに対して針を用いない新空気圧技術（ENERJET）を使用したヘアラインリフトを追加処置し一定の効果、満足度を得ている。今回はスレッドリフトにヘアラインリフトを併用する有用性について症例写真を供覧して発表したい。

当院では針を用いない新空気圧技術（ENERJET）を用いた前額部から側頭部への真皮内ヒアルロン酸拡散注入法をヘアラインリフトと名付けており、この技術についても紹介と説明を行いたい。